

クラス	TU307	担当教員	亀谷和史
テーマ	乳幼児の発達と「保育実践」の課題		
著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践Ⅱ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2016年、『同Ⅰ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2013年、「アンリ・ワロンの人格発達理論における『機能連関』と『指向性機能』に関する一考察」（『日本福祉大学子ども発達学論集』第8号・2016年）、『現代保育と子育て支援—保育学入門（第2版）』亀谷和史編著（八千代出版）2008年、など。		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：乳幼児 発達 アタッチメント（愛着） 保育実践 保育の専門性			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>亀谷ゼミは、乳幼児の子どもの発達を学び、それを「保育実践」の具体的な活動の中でどのように生かすべきか、を深めて取り組んできました。乳幼児期の自我や認知・感情の発達、アタッチメントの形成など、具体的な活動を通して、知り、深めることで、保育実践上での意義（意味）や課題をより明らかにしていきます。このことは、保育者としての「専門性」獲得の一助となります。</p> <p>共通に学んでいくテキストとしては、赤木和重・岡村由紀子他著『どの子ども あ〜楽しかった！の毎日を一発達の視点と保育の手立てをむすぶ一』（ひとなる書房）2017年、や保育関係の雑誌から発達や保育実践関連のタイムリーなものを取り上げ、読み合わせをおこなったりしています。</p> <p>今年度の前期は、高橋恵子著『子育ての知恵—幼児のための心理学』（岩波新書）2019年を読んで、アタッチメントの形成の重要性などを学んできました。</p> <p>後期は、グループあるいは個人で研究課題を自由に決めて、文献から学んだり、リサーチしたりして、順に発表します。また実習での振り返りやコロナ禍が収まれば、保育所見学・体験に行つて学んだりもしていきます。</p> <p>4年生では、保育・幼児教育、子育て支援に関して、各自で、研究テーマを決めて、卒業研究の執筆に取り組みます。ちなみに、昨年度・今年度の4年生の卒業研究のテーマを一部紹介すると、  「ぬいぐるみが幼児期にもたらす効果について」、  「幼児体育とヨコミネ式教育方法」、  「絵本と紙芝居の発展の歴史」、  「スマホ育児の実態と問題点」、  「愛着障害の研究—その克服に向けて」、  等々です。</p> <p>今、新型コロナウイルスの影響が続き、乳幼児期の子どもの発達に甚大な影響を及ぼしていると思われます。保育士の加重労働の負担なども指摘されていますが、乳幼児期では、大人との心身ともに関わる、密接なコミュニケーションが求められます。その影響や課題についても、来年度は追究してみたいと思っています。  コロナ禍が依然、続きそうですが、みんなで、充実したゼミにしていきたいです。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>○保育園・幼稚園、こども園にテーマを定めて、見学や体験実習も予定しています。</p> <p>○コロナ禍が収まれば、例年、3年の夏休み後半にゼミ合宿を予定しています。毎年、全国で著名な園に半日・一日見学実習に行っています。（今から合宿代2万~3万円を貯めておいてください。）  （*昨年度は実施できませんでしたが、2019年度は大阪府茨木市のほづみ保育園、2018年度は、異年齢保育で有名な滋賀県野洲市のきたの保育園、2017年は横浜市の園庭が有名な川和保育園など、見学訪問に行きました。これまで合宿で見学に行った園は、横浜の安部幼稚園、多摩市のこぐま保育園、京都市のたかつかさ保育園などです。今年度は保育所見学のゼミ合宿を2月に予定です。）</p> <p>○本格的には4年生になって、卒業研究に取り組みます。個人、またはグループで関心のある専門的なテーマを選定して、「子ども発達学専門演習Ⅱ論文」（=卒業論文）として執筆します。4年次の11月ごろに中間発表会を行う年もあります。</p> <p>○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように互いに学びあいます。毎年、1月末に、ゼミで3年生・4年生合同の卒業研究発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。</p> <p>みんなで、有意義で充実したゼミにいきましょう！</p>			